

国際化学肥料ニュース (2020年7月)

肥料業界の2020年7月動態

- * 2020年春季インドの天候がよく、降雨量が増えたことで作物栽培面積が増加し、化学肥料販売量が大幅に増加した。

インド気象部門の観測データによれば、6月インド平均降雨量201.6mm、平年より15%増加した。4~6月インドの農作物播種面積が3156万ヘクタールを超え、近年最高水準になった。これに伴い、6月の化学肥料販売量が昨年同期より79%増の686万トン、そのうち尿素が70%増の336万トン、DAPが倍増の127万トン、NPK化成肥料も倍増の128.9万トン。これからもインドが尿素とDAPの需要が旺盛で、輸入量が大幅に増え、国際市況に影響を及ぼす見込みである。

- * 7月10日、インドMMTC社が尿素の国際入札を発表した。7月17日締切と開札、8月20日まで船積みという条件である。予定契約数量未定だが、100万トン以上の購入を目指している模様。これは今年インド4回目の尿素国際入札である。

- * 7月17日、インドMMTC社が尿素国際入札の開札結果を公表した。15社が応札し、応札量205.7万トン、最低応札価格がSamsung社のCFR東海岸240.5ドル/トン、Midgulf社のCFR西海岸242.5ドル/トン。6月12~19日に行った前回インドRCF社の尿素入札では12社が応札、応札量209.45万トン、最低応札価格がCFR東海岸237.35ドル/トン、CFR西海岸238.45ドル/トンであったので、今回は3~4ドル/トン上がった。

- * インドMMTC社の尿素入札は契約数量が11.95万トンしかないことが判明した。今月中に再び尿素の国際入札を行う噂がある。

- * 中国税関の速報によれば、2020年6月中国化学肥料輸出量が12.1%増の228.7万トン、金額が1.8%減の5.6億ドル。その内訳は硫安59万トン、尿素22.3万トン、DAP56万トン、MAP12.3万トン、化成肥料14.6万トン。1~6月の化学肥料輸出量が5.4%減の1193.5万トン、金額が24.7%減の26.5億ドル。その内訳は硫安358万トン、尿素172万トン、DAP203万トン。

一方、6月の化学肥料輸入量が18.4%減の65.3万トン、金額が30.8%減の1.8億ドル。その内訳は塩化加里49万トン、化成肥料12.3万トン。1~6月の化学肥料輸入

量が 26.1%減の 487.3 万トン、金額が 30.9%減の 14.5 億ドル。その内訳は塩化加里 386 万トン、化成肥料 72 万トン。

* 各国の塩化加里輸出輸入データ

国名	期間	輸出量(万トン)	輸入量(万トン)	増減率
カナダ	2020 年 1～5 月	890		-3%
日本	2020 年 1～5 月		12.1	-28%
アメリカ	2020 年 1～5 月		520	-7%
ブラジル	2020 年 1～3 月		107	-1%

* 7 月 22 日、インド MMTC 社が再度尿素国際入札を発表した。7 月 30 日締め切りと開札、9 月 4 日まで船積みという条件である。これは今年インド 5 回目の尿素国際入札である。7 月 17 日開札した前回の尿素入札は契約数量が 11.95 万トンしかなく、国内需要を遠く及ばないので、開札 5 日後再び尿素入札を行う。

* 中国窒素肥料工業協会のデータによれば、2020 年 1～6 月中国の窒素肥料生産量（N 換算、以下同）が 3.2%増の 1704.1 万トン、そのうち尿素が 6.2%増の 2353.6 万トン（実物量）。1～5 月の国内窒素肥料消費量が 4.3%増の 1518.5 万トン、そのうち尿素が 6.8%ぞうの 2203.9 万トン。輸出が 6.4%減の 196.6 万トン、輸入が 31.7%減の 11.0 万トン。

中国国家统计局の最新データによれば、2020 年 1～5 月中国リン酸肥料生産量（P2O5 換算、以下同）が 27.1%減の 500.6 万トン、国内消費量が 27%減の 378 万トン。輸出も不振で、1～5 月のリン酸肥料輸出量が 24.4%減の 136 万トン、そのうち DAP 輸出量（実物量）が 31.4%減の 148 万トン、MAP 輸出量が 0.9%増の 119 万トン。

中国国家统计局の最新データによれば、2020 年 1～5 月中国加里肥料生産量（K2O 換算、以下同）が 1.4%減の 289.9 万トン。輸入量も 31.58%減の 331.84 万トン。

* イスラエルの ICL 社がスペインにある加里鉱山と精製工場を永久閉鎖することを発表した。当該加里鉱山は生産量が少ないうえ、生産コストが高く、この数年間で赤字が続いている。閉鎖により、お客様への供給はイスラエル死海工場からの製品に切り替える。

* 今春の良い気象条件で、インドの化成肥料販売量が大幅に増え、1～6 月の販売量が 82%増の 490 万トン、7～8 月も好調が続くと見込んで、商社が不足分の輸入に必死になっている。インド NFL 社は 7 月上旬に 3 万トン 10-26-26 の化成肥料入札に応札者が現れなかったので、放棄せざるを得ない。また、NFL 社の 2.7 万トン 20-20-0-13S

の化成肥料入札は7月10日開札になっても応札者が現れていないため、さらに数量が7.5万トンに増加すると新たに4万トン12-32-16の化成肥料入札を行い、入札締め切りが7月24日に延長された。また、RCF社も9万トン10-26-26の化成肥料入札を7月25日に締め切りされた。

- * 7月後半、国際りん安市場に好況が現れた。インドとパキスタンの需要増で、DAPとMAPの価格が大幅に上がった。インドRCF社が11.5万トンDAPの入札を行い、応札価格がCFR320ドル/トンを超え、1ヶ月前より10ドル/トン以上も上がった。パキスタンがDAPのCFR価格がすでに325ドル/トン以上に上がり、Pak Arab社が2回にわたって計10万トンのDAP入札に応札者が現れなかった。

西半球では、ブラジルは粒状MAPに関する問い合わせが増加し、CFR価格が335~340ドル/トンに上がる見通しとなる。アメリカはモロッコとロシア産DAPとMAPに対するアンチダンピング調査が始まったことで、ニューオーリンズDAPのFOB価格が320ドル/トン、MAPのFOB価格が315ドル/トンに上がった。

- * 7月30日インドMMTC社の行った尿素入札が開札された。13社が応札し、そのうち10社が入札要求に満たし、応札数量163万トン、最低応札価格はCFR東海岸259.59ドル/トン、CFR西海岸257.70ドル/トンである。同じMMTC社が行った前回の入札（7月17日開札）より15~19ドル/トンも上がった。

- * 7月30日開札されたインドMMTC社の尿素入札は、最終契約した数量70万トン、目標の100~150万トンには達していない。8月1日インドRCF社が新たに尿素的の国際入札を行い、8月10日締切と開札、9月15日までに船積という条件である。これは今年インド6回目、この1か月で3回目の尿素入札である。

今年の春からインドの気候が良く、農作物の生育が順調で、肥料消費量が大幅に増加した。6月と7月だけでそれぞれ336万トンと350万トン尿素が販売される。国内生産量が220万トン/月しかないので、毎月120~150万トンが不足して、輸入に依存している。イラン産尿素が入手できず、5~7月の中東産尿素がほぼ全量インドに輸出され、高価の中国産尿素にも手を出している。

大手各社の営業業績

- * ノルウェーのYara社は2020年第2四半期の業績を公表した。新型コロナウイルスの影響で、アンモニア生産量が14%減の186.8万トン、肥料生産量が7.1%減の508.7万トン、アンモニアを含む肥料販売量が6.6%減の964万トン。コストの削減が効いて営業利益が25.9%増の3億3500万ドル、純利益が2億2300万ドル。

- * ロシアの PhosAgro 社の国内販売子会社 PhosAgro-Region 社は 2020 年上半期のロシア国内肥料販売実績を公表した。販売量が 190 万トン、国内販売シェアの約 40%を占める。販売量のうち、PhosAgro 社の製品が 11%増の 154 万トン、他社製品が 34 万トンである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの Trigg Mining 社は西オーストラリア州にある Throssell 硫酸加里プロジェクトについて、2020 年から試験的掘削を始めると発表した。Lake Throssell は乾固塩湖で、その地下鹹水には平均 11,800mg/L の高濃度硫酸加里を含んでいることはサンプリングで判明した。
- * オーストラリアの BCI Minerals 社は西オーストラリア州の Mardie 硫酸加里と塩化ナトリウムプロジェクト計画を発表した。当該プロジェクトは海水を原料にして、太陽熱で蒸発させ、食塩と硫酸加里を得るものである。生産能力は年間食塩 440 万トン、硫酸加里 12 万トン、投資額 7.79 億ドル、2021 年第 1 四半期に最終決定、第 2 四半期から建設、2024 年から食塩、2025 年から硫酸加里を出荷する計画である。
- * オーストラリアの Salt Lake 社はその Lake Way 硫酸加里プロジェクトが最終段階に入ったと発表した。当該プロジェクトは西オーストラリア州の Lake Way の鹹水から硫酸加里を生産するもので、投資額 2.64 億オーストラリアドル（約 1.84 億ドル）、年間 24.5 万トン硫酸加里を生産する。生産コストは 210 ドル/トンと予測される。すでに 2019 年第 1 四半期から建設を開始し、蒸発池や精製工場が完成し、2021 年第 1 四半期から出荷するという。
- * ロシアの Acron 社は Veliky Novgorod 工業団地にあるヨーロッパ最大級のアンモニア-4 ユニットの生産能力を拡張し、設計の能力より 21%引き上げ、年間 90 万トンにする計画を発表した。投資額 3400 万ドル、2020 年第 4 四半期に完成する予定である。これにより Veliky Novgorod 工業団地のアンモニア生産能力が年間 220 万トンに達する。生産されるアンモニアは主に同じ工業団地にある Acron 社の化成肥料工場に供するという。
- * ヨルダンの APC 社は死海の南部に化学工業団地を建設する計画をヨルダン政府の投資委員会に提出した。フェーズ 1 にリン酸加里、塩素、アルカリの 3 工場を、フェーズ 2 に硝酸加里とアンモニアの 2 工場を建設する。投資額 3.3 億ドル。

- * ロシアの Acron 社は Dorogobuzh 工場のアンモニアプラントの更新工事を完了し、すでに 44.4 万トンアンモニアを生産したことを発表した。Dorogobuzh 工場のアンモニアプラントは 1979 年 12 月に完成したもので、老朽化により、2 年前から最新設備を入れて、更新工事を行った。更新後の生産能力が 2100 トン／日のままであるが、天然ガス消費量が 7% も削減され、メンテナンスの頻度が下がり、年間生産量が最大 13 万トンも増加するとの見込みである。

その他

- * モロッコの OCP 社はアメリカの Mosaic 社が 6 月 26 日米国商務省と米国国際貿易委員会に提出したモロッコとロシアから輸入するリン酸肥料に対する相殺関税を徴収する請願について声明を発表した。OCP 社は声明の中に「米国市場での自社製品のすべての販売に関して、関連するすべての法律および条約の義務を完全に遵守して事業を行っている。」と述べ、米国当局にその請願に異議を申し立てることも明らかにした。
- * ロシアの UralChem 社は所有の Azot 加里工場の生産を一時停止し、再開が未定と発表した。起因は 7 月 7～8 日ロシア政府の環境管理当局がその工場所在のカマ川から高濃度の塩化物が検出されたことである。環境管理当局が Azot 加里工場から塩化ナトリウム廃液を排出した疑いがあり、調査を開始したという。
- * オーストラリアの Australian Potash 社は三井物産との間に年間硫酸加里 3 万トンを三井物産に供給する契約を締結した。Australian Potash 社は現在開発中の Lake Wells 硫酸加里プロジェクトが順調に進み、年間 15 万トン硫酸加里を生産する計画である。すでにオーストラリア、ニュージーランド、中国の会社との間に年間 10 万トンの販売契約を締結した。
- * 7 月 17 日、アメリカ商務省はモロッコとロシアのリン酸肥料メーカーが所在国の政府から不当の補助金を受け取っているかどうかの調査を開始すると発表した。6 月 27 日、アメリカの Mosaic 社はアメリカ商務省と米国国際貿易委員会にモロッコとロシアのメーカーが政府の補助金を使い、アメリカに安値でリン酸肥料を輸出しているの、相殺関税を徴収する要請書を提出した。2019 年アメリカはモロッコから 7 億 2900 万ドル、ロシアから 2 億 9900 万ドルのリン酸肥料を輸入した。
- * 7 月 24 日、WTO 紛争解決パネル（小委員会）は EU のロシア産硝酸に対するアンチダンピング関税を禁止する決定を下した。EU が 2000 年からロシア産硝酸に対してアンチダンピング関税の徴収を決定し、2018 年から施行された最新の関税額は 32.17 ド

ル／トンである。一方、ロシア側は 2015 年から WTO に提訴し、5 年間審議の結果、EU のアンチダンピング措置が違法という結論に結び付けた。

- * 7月18日、ロシアの UralChem 社は Azot 加里工場の生産を再開すると発表した。カマ川の塩化物含有量が許容レベルまで下がったことで、再開に支障がないことを判明したためである。